

[第 122 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

コロナの感染拡大で会場が使えない場合は中止になります

令和 4年 1 月

NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 4年 2月 5日(土) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.16～ (用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

1月9日(日)午後、安曇川公民館で第121回藤樹人間学塾を開きました。今回の参加者は11人でした。

今回は、本塾で10年間学んできた中江藤樹について復習の意味も兼ねて、内村鑑三著『代表的日本人』のうち中江藤樹の章を皆で輪読しました。大意は以下のとおり。

「かつての日本の教育は、学校は知的修業の場ではなく、真の人間になるため主として道德、それも実践的なものが教えられていた。

1608年(江戸初期)に近江で生まれた中江藤樹は、四国でもっぱら祖父母に育てられたが、年令の割には並外れて利発な少年だった。11歳の時、『大学』のある一節に触発されて、「聖人になる」という志を立てる。

藤樹は、その学識と高潔な人柄で名誉も高録も約束されていたが、母への敬慕の情断ちがたく、ついに地位や財産をなげうって帰郷する。そして2年間、酒売りなどをしながら母への孝養を尽くした。

28歳の時、世に乞われて村に私塾を開く。村の出来事にはいつも関心を持ち、自分を乗せた駕籠かきにまで「人の道」を説いていたと言われる。教えを乞いに来た貧しい若侍、熊沢蕃山には謙虚な態度で接する一方で、威厳ある態度でやってきた大名には堂々たる態度を示す。国中の人々から「近江聖人」と呼ばれるようになる藤樹はまさにその名に値する人物だった。

藤樹は、最初は朱子学を学んだが、後に陽明学になっていった。藤樹は非常に独創的な人物だったが自分の考えを述べるのに古典の注釈を使った。人が作った「法」、永遠の「真理(道)」、藤樹はこの二つをはっきり分けて考えていた。藤樹は、謙讓の美德を最高位としていた。徳を大切にしようと思うなら、日々、善を行うことです。善を毎日行えば、悪が毎日去っていきます。」

その後、フリートークングを行いました。参加者から「藤樹はなぜ熊沢蕃山を直ぐに弟子にしなかったのだろうか」(→超一流の人物同士が邂逅したからだと思います)、「この本の最後の頁の記述『崇高な目的を持って生きていれば、目立たない人生であっても影響を与えられることを、私たち誰もが藤樹から学べるのではないか』に共感した」、「藤樹人間学の教えが日本中に広まって一人でも多くの方が心豊かに過ごせるといいなと思う」等の意見、感想をいただきました。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。